

美水一書

美水一書

庫	文	閣	内
三	七	九	和
函	九	七	書
九	二	九	類
架	冊	號	

六	二	冊	架	類
二	七	九	七	冊
八	七	九	七	函
二	七	九	七	號
二	七	九	七	類

内閣文庫	番號	和 27997
	冊數	62 ( 16 )
	函號	203 29



支子園  
圖書記

卷之七

蓬生

遷漂並舟一

明治七年

事一河ありと云ふも、  
路まゝと云ふも、  
中を只と云ふも、  
乃さののりとも、  
すり廿八集乃四月は宮と、  
末とこれ事あり

光

以詞并 奇為卷名詞云えと

さのの落けと云ふに、  
わさしと云ふと、  
と有是ハ横並也、  
遠生の云ふ乃始終と云ふ

と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の、  
と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の

と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の、  
と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の

と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の、  
と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の

と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の、  
と有是ハ横並也、  
源氏乃廿七八集の

八原氏は... 海軍... 二条... 横江...

... 平朝臣... 七葉...

... 海軍... 海軍...

... 海軍... 海軍...

... 海軍... 海軍...

... 海軍... 海軍...

... 海軍... 海軍...

... 海軍... 海軍...

元

尾崎の女院の御書

宗

南流の御書

あまの御書  
中  
常  
色  
も  
細  
あ  
あ

あまの御書

宗

橋入の御書

宗

源氏の御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

あまの御書

宗

細

あまの御書

あまの御書

あまの御書

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written on aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page. There are several small, illegible markings or characters interspersed within the main lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written on aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page. There are several small, illegible markings or characters interspersed within the main lines of text.

一掃也 辨 一掃に掃路ありはのり也 采末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃

中一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃

一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃  
一掃に掃路ありはのり也 採末摘乃

何 樹林 必知名 杉林 同 典 本魁 山鬼 魁 同 玉 本靈 正喜 夫  
物類也 鬼神の教と云 集 化生と云ふ人

然るに人々の心は... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎

あつた... 毎





此鏡不為玄同 法師不可讀也 ねむし法師の平に  
いともやとらん也 可んかたへあつらん也 元世信より男本入

むともさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

河上モウ  
懐女總南時 童子也

かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん  
かねてさうらん かねてさうらん かねてさうらん

謹



るる兒女とてとわたりてやうにさうらうをさすもよし  
とてはうらうらとありて思ふもあらも有るれ

古事一の巻もよしとらるといふゆゑの巻もよしとて  
一の巻集もよしとてある人よしとて 某葉の巻

もよしとて女よの巻もよしとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

とらるといふとて思ふもあらも有るれ  
とらるといふとて思ふもあらも有るれ

うたふまののちうらふまふあらもれては羨まをにあり

終り毎院を 細身院集との事

とつあふあまの女終らるる事あり 細身又大紙の妻也

達生の志乃母方のよしと也 兼其の事也

びきあそむうらふまふあらもれては羨まをにあり

細 大紙のしりあせ

あふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

うらふまののちうらふまふあらもれては羨まをにあり

あふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

細 大紙のしりあせ

あふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也

とつあふあまの女終らるる事あり 兼其の事也



附ははまよりしるせぬゆゑにこゝろのほろり申すは

末橋は出あきこと也

しるせぬゆゑにこゝろのほろり申すは

末橋は出あきこと也

はるばるとははらひぬらふもいさぎよい也

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

もせつひをぬれぬぞ細あまうらひをくはらひ

まのけさぬし路故はゆりうらなるとも

末橋は出あきこと也

移りやせむ人さひひもり

くらやみにいろははたはるく

くはらふに細はたの男くくく大武はぬ也

しるせぬゆゑにこゝろのほろり申すは

あはれも縁かまらうしきになんことのはれ也

あまののら也

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

相大武乃妻のち也と大武はぬて大宰府へまよおす

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

はるばるとははらひぬらふもいさぎよい也

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

あはれも縁かまらうしきになんことのはれ也

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

くまろのむらあやしくはくちりふはせゆくもたれん

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし  
 と思ふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 せんといふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 也何れ中紀もて撰字とてよむしとてあはれ撰言り  
 あり細述り也

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし  
 と思ふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 せんといふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 也何れ中紀もて撰字とてよむしとてあはれ撰言り  
 あり細述り也

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし  
 と思ふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 せんといふもけりしとて并たしとやよむしとてあはれ  
 也何れ中紀もて撰字とてよむしとてあはれ撰言り  
 あり細述り也

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

細 けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

けりぬるもくはしをけり人となぬ度とやんといふし

有人たちをいれ末摘らんをん可也

身はたつねに若き  
とらふらふはい  
はしよこしあま  
ひしよこしあま

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

元備家集

百世也りやまきんこまそこのん 糸跡山賦也

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

人よりさほるさほとさまらふんをあらとるんや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

生あらや也

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

あまらふもさるひよりにのこるくさありあや

十一

十一







先引かすの並一蓮生並二実成行かすの開成と  
一はたてきるとそのれを時代前後とす也実成を原  
氏ゆ京の次年常陸公治志を承り及して原氏石山  
治は色也也 細 櫻標をに有く八海也十月廿日  
也原氏七葉也

はせん一乃君も系り終つるもらうなるうさぬまたらうり  
終ひく 細 常陸文のけふ乃あさると也

まうく指大納をよめくは八海と系りてゆつるありとい  
こり 系末摘へ孫所乃ゆりに出有て八海也此と終終

也

りきる海去のうらるといそとくはつらう母りらとこ  
とりのうらうらとらんし終つる 系生松園のうらと也

公堂の薩の變化乃ありとすものし終めれ 系 原氏とす

とんたり

りつのみらとあり死せむとて生れ終つるといひくやと

細 源のゆり也虫淵のそよ生れ終て身物とらゆ也とい

よらんとぬぬはあといひあてうひら死せの物終とすとい

あう末摘のゆり力のうひら死ありとぬとともといあ

んを終つぬと也

んしの伝はらやとけらう知得也 細 松堂の薩ありといひら

細 源氏と松堂の薩よりとてある故より又又といふ

松井やとほよとねねんぬへ

まじりくもらとありややうくさひまの路よ大哉乃おのくこ  
みえたいさる終りもいそりしとむらひぬと 細はくくお  
路也 大哉乃おまれひのしと淡うを同心してまや  
路への路もくうりうとさるる也

さういふとせんらあしきまらふと終りかえくちと  
はくへ末摘とつとまらふとゆふ也

てうしあうと車よのらとてまらうらうきひらうた也  
さひまひかろとさゆして 大は家来乃用とこしちた也

ゆいひまらうくさうとさうとつあまらうまらうとさうと  
ゆいひまらうくさうとさうとつあまらうまらうとさうと

ゆいひまらうくさうとさうとつあまらうまらうとさうと  
ゆいひまらうくさうとさうとつあまらうまらうとさうと

いふやとみと 細 大哉乃おまの信れぬのとと也

かあうとくしとをたなる路あなるさひらみらとくさうと

可<sup>ヒキヤリ</sup> 蔭<sup>カゲ</sup> 三徑<sup>サンケイ</sup>とたると也 舎中ノ竹下ニ開ク三徑ノ文

選日三徑就荒松南於存 陶淵明句也 三徑ハつよ行

みちみへりる三<sup>カ</sup> 是先ハくれるる家もよもあるを

さうり 細 いうるるのれくさ家もよは三徑ハある也は宮

みち三徑もらるともさゆと也 案 陶的部はけううらるに

やうくさるるさうと三徑もたゆるゆらまれとねとサ蜀と

みちこれえぬなとつらとさうとなせうとをみちうと

何ららん也

見らるる南もしてうらうらあまあらうらにをたれた

細 大哉乃まきもとつらねとさうとさうと下車も入る也

下後又車とのらとつらとさうとさうとさうとさうと

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

いふまゝあるあはれいらはるめあまつらうきあはれ  
くまはれとらるる

年少も何れもかむとすはらにむはむわら

果

末摘の原氏をいりてはむとてむひわたり終る也

ちる後ちむつりてはむとてむひわたり終る也

くはむとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

はむとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

むとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

はむとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

むとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

はむとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

むとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

はむとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

むとてむひわたりてはむとてむひわたり終る也

とありうへあてり 果あもと推して積よおそり  
かゝるもあすのしきありのしよりのり也

きのめしり物あり 果もこもあまののりあり  
たしとあすのりあてりはしとあすのりあり  
あすのりありしりありあてりしりありあてり  
にありあてりありあてりありあてりあり

細

紫のり也 果は国中ありあてりありあてりあり  
しあまもあてりあてりあてりあてりあてり

あすのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
ありありあり 果あまのりあり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり  
あまのりありあてりあてりあてりあてりあてり

新うぬもむらもあひさひのり

中よのうぬもむらもあひさひのり 葉は長うはあひさひ

の中よのうぬもむらもあひさひ

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

あひさひのり 葉は長うはあひさひのり

葉









源の世にやむる事ありては

しる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

源の世にやむる事ありては... 源の世にやむる事ありては

たゞしに掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
ついでに掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
ついでに掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた

あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた  
あつて行くも掃くもつらうと一掃もあつたもろくもあつた





さういふ事もなくいふ事もなくさういふ事もなくさういふ事もなく  
うやうやいとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

はらりやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや  
の病はよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき

うきしつ病もあれと惟えうきしつ病もあれと惟えうきしつ病もあれと

かえりて病はけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
りそきけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

細 ぬきもや 采老女の初也 末橋の津のふらふらぬんきき  
きききききききききききききききききききききききききききき

かききききききききききききききききききききききききききき

とささささささささささささささささささささささささささささ  
せとととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

とととととととととととととととととととととととととととととと

細 源のさささささささささささささささささささささささささささ



うらりてかきいひししむるにこそありしとさかきたる  
よれきふとあはれかきいひしとさかきたるに  
かきいひしとあはれかきいひしとさかきたるに  
多しき梅のさき 細 まるる花のよさをあはれしとさかきたる  
神ありけりしとさかきたるにさかきたるにさかきたるに  
てきかきいひしとさかきたるに 糸 糸橋のす  
*（faint text)*  
いさかきいひしとさかきたるにさかきたるにさかきたるに  
*（faint text)*  
糸 糸橋のす  
*（faint text)*  
糸 糸橋のす  
*（faint text)*  
糸 糸橋のす  
*（faint text)*

てあはれしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに

いさかきいひしとさかきたるにさかきたるに



...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

若 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

... 瑞の... 此の... 瑞の... 此の...

Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of approximately 15 lines of dense, flowing characters.

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of approximately 15 lines of dense, flowing characters.



年とをてまのちるゝるにわもをた方きとらとぬりりあ

花乃たうととらつたひまひも一花也 余末橋の西も

也まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

ももこれるゝあつたひまひも一花也まのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

まのちまのちまのちまのちまのちまのちまのちまのち

女の髪をいりておゝるや也或脱袴の中納を物

様とらふ物を源氏物語の物の被云々多々也れ如

号小机丁れんむいんとそめよぬりてきたるのあり

大脚 大脚は事取元丁ちりのひの破着々々 花は事末二

に變り也教叔子の男も也奥合女とりつゝおき遊せ

に極の中納を物給物似やうあるも也それなま

とこに女とりつゝ常陸宮此のに役あるもや

<sup>并</sup>塔うちりたる人々を教叔子より中納と貞人の也

は末花は同末一変り畢竟<sup>ヒラキキテ</sup>なり成人乃たりたる

<sup>細</sup>花をよむたり桂牛細を物語の院をいふも是なり也

む年々も海まで年々もりにある也是也是なりなり

<sup>細</sup>ある物とともありまをいへて是なり也

世に 一たるもすひたはひあておれりともゆり

おひ 細 是れとらほ源氏のり路なり

はるやいひていといと云々ははるの源氏乃はん也

ちもせん也 茶 好色れははるのあめさるまよひは

なれなりゆく末摘とと給しきよの源氏乃はん也

くるもいとひいと年々なるははるに物なりはひ

きて高つるか也 茶 一とら末摘乃ははんとらる

ての路とあれははるの左遷何れとらまは

はるもはひへしはるも給也

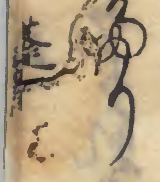
はるもはひへしはるも給也 茶 末摘の

よの路なり

か乃花ららひももあなも今めりうちるとは花のさる

ぬありて 茶 源氏末摘よりとそおろくは花のさる

んはひ





清めうらうらうれうぬううわうくせにあり 昇 花巻  
乃 越のこ海と花巻ううぬはまれと末橋乃言う  
あきたるもあうりこれの白ううぬと末橋のまれ  
何れあうりあうりぬううう  
とまきもまれとや

まうりこまらうりの白ううぬと末橋のまれと  
乃まうりあうりぬううう

細 如 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

はらうりぬううぬと末橋のまれと  
乃まうりあうりぬううう

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

はらうりぬううぬと末橋のまれと  
乃まうりあうりぬううう

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

はらうりぬううぬと末橋のまれと  
乃まうりあうりぬううう

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

乃 中 乃 末橋乃言也 昇 乃 末橋乃言也

るにたりていふにんくはあはれはけりてはせむ

二条院 細末院也

くへはるをまていふくちりていふはひもも終くをせ

いふかひあはれはけりてはせむはけりてはせむ

末摘乃むけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あはれはけりていふはけりてはせむ

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

あつちのしるしをいふに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに  
いふは我々のしるしに

Handwritten text in cursive Japanese style on the left page. The text is densely packed and flows from right to left across the page.

Handwritten text in cursive Japanese style on the right page. The text continues from the previous page and includes several lines of vertical writing.

年...の...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

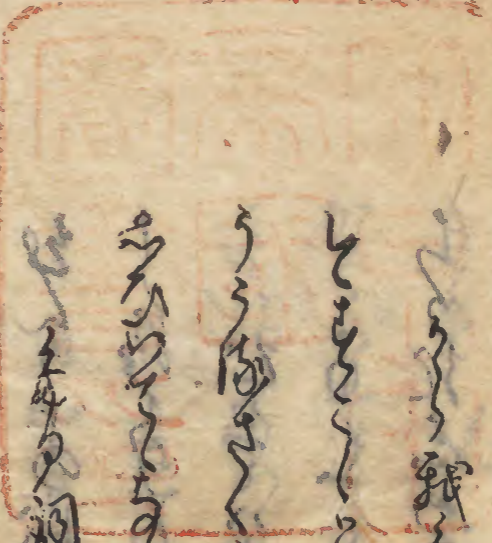
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



三十三

